

## 食品寄附等に関する DX 分科会（第 1 回） 議事概要

（※敬称略）

令和 6 年 6 月 24 日（月）

13:00～15:00

（株式会社ブライセン物流流通本部ゼネラルマネージャー 恩田 明）

- ・ 当社は、自動発注によるフードロスの削減等、主に店舗の DX の取組を行っているソフトウェア会社である。本分科会では、ベースレジストリの仕組みを精巧に作成することを目的とするのか、税制の補助等により貧困層、フードバンク、こども食堂を巻き込むための制度にまで踏みこんで議論をするのか、関心がある。

（ネッスー株式会社代表取締役 木戸 優起）

- ・ 当社は、フードバンク活動の物流、情報マッチング、マネタイズの仕組み等に係る取組を行っているベンチャー企業である。子どもの機会格差をなくすことを目的に主にフードバンク事業に取り組んでいる。

（株式会社クリエイターズネクスト代表取締役 CEO 窪田 望）

- ・ 当社は AI 実装等に取り組む会社であり、米国、中国、香港、日本などで AI の社会実装を行っており、様々な企業、省庁、自治体の AI 等による DX を実施してきた。最近は食品卸の DX に力を入れており、本分科会に貢献できればと考えている。

（株式会社 DATA FLUCT 代表取締役 CEO 久米村 隼人）

- ・ 当社は創業 6 年目のスタートアップであり、フードロスのアルゴリズムの開発により創業した。現在は食品卸に対し AI による倉庫の自動発注化等を実施している。また、物流トラックの最適化、食品業の生産予測、店舗の自動発注等も実施しており、食品のサプライチェーン全体における AI 活用を進めている。

（日本女子大学家政学部教授 小林 富雄）

- ・ 食品流通に関する組織の在り方の研究を行っており、食品ロスについては二十数年、フードバンクについては十数年にわたり研究を続けている。食品ロスの発生は予測することが難しく、フードバンクの業務は煩雑になりがちであるが、DX を活用し

て取引コストをいかに下げていくかがポイントとなると考えている

(C i P P o株式会社代表取締役 横山 哲也)

- ・ 当社では、自治体の DX や飲食店の課題等を地域内で解決するため、市や町ごとに生活圏内のためのアプリを作成している。中でも、食品寄附による値崩れを懸念する店舗、貧困層だと思われたくないユーザー、シングルマザーや生活保護受給者、こども食堂の利用を敬遠している親など、個別のユーザーの目線に立って、会員制によるクローズドな環境における食品寄附のマッチングについて取り組んでいる。

(株式会社ブライセン物流流通本部ゼネラルマネージャー 恩田 明)

- ・ ベースレジストリ自体は、マッチングの提供者とフロントラインの方々の定義ということで認識した。また、寄附品の分類が事業者ごとに異なるという話があったが、商品情報に関しても GS1 のコード体系をもとにレジストリに組み込んでいくのか、決めていくべきだと考える。
- ・ 卸や小売は商品情報を当たり前のように所持しているが、商品情報を利用する側が利用料を支払わなければ情報を貰えないという実態があるので、商品情報を含めサポートができるベースレジストリにする必要があると感じた。

(公益財団法人日本フードバンク連盟)

- ・ 商品情報をどのようにシステムの中で一元的に管理するかという議論があったが、フードバンクの現場にいる立場としては、正規の製品ではない訳あり品が販売できず寄贈されるケースが多いと感じている。企業として「〇〇という前提で寄附してよい」という情報のもとでフードバンクに寄附されるが、そのような情報をどう組み込むかについては、今後の検討内容に含まれているのか。バックラインやフロントラインというカテゴリーの中でプレイヤーの色分けはどの程度想定しているのか。各カテゴリーのプレイヤーの実情の把握にはどの程度時間を割き、システムにはどの程度反映される予定か。
- ・ 寄附企業がフードバンクに寄附を行う際に、納品の際はバラ積みなのかパレット積みなのか、パレット積みの場合パレットの仕様は木パレなのか捨てパレなのか、といった内容を今後ベースレジストリに組み込んでいく必要があるのか検討いただきたい。また、寄附を受けている中で、JAN コードの印字ミスにより販売不能となり寄附されたというケースがあり、そもそも JAN コードが付されない場合にどのように対応していくのか、検討いただきたい。

（一般社団法人全国フードバンク推進協議会）

- ・ 本日の議論はどちらかというとシステムの話が中心であり、フードバンクや食品企業の意見があまり入っていないかと思うので、それぞれの主体における必要な情報や、全体としてどのような情報が最低限必要なのかについては、今後各ステークホルダーに詳細なヒアリングを行っていただきたい。

（以上）